

笑顔いっぱい「おたがい様うて」と心が通いあう新飯田

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組みに内容等共有されていますか)	△
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△
住民にきちんと伝える機会をつくらう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取り組みの90%以上達成	A
期待される取り組みの75%以上達成	B
期待される取り組みの50%以上達成	C
期待される取り組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取り組み 期待される取り組み
1. 誰にとっても安心して安全に暮らせる地域づくり (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)	
○各家庭で災害時の避難について話し合うようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会による避難訓練の実施 ・避難所の耐震性の見直し ・自治会単位での話し合い ・避難所が手狭なため、障がい者や高齢者にとっても安全な避難所の設置場所についての検討 ・もっと避難所が必要。水害の時は2階へ避難する。民間のビルを借りるようになる(南部でそのような動きがあるところがある) ・道の駅をつかって、避難所にしようと検討し、行政に交渉したが、話は進んでいない。
○誰にとっても安全に避難できるよう、避難所の安全について検討を続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接市(三条・燕・加茂)との協力体制の構築 ・各自治会が要援護者の名簿をもとに人数や状況を収集する訓練を実施 ・避難体制づくりの明確化 ・班長による見守りなどの訓練、細かい話し合い、障がい者や高齢者を対象としたアンケートの実施
○地域ぐるみで防犯に取り組む(子どもの安全・見守りも含めて)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全協会による登下校時の街頭指導(春・秋) ・自治協議会長、青少協による防犯パトロール ・一人暮らしや高齢者世帯のゴミ出しや見守り ・認知症の方々をあたたく見守れる地域づくり ・下校時の見守り等に、防災無線を有効活用できるように働きかける
○防犯面からの環境整備を図るための検討を続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・公園維持管理協議会による公園の整備、トイレの清掃活動(月1回) ・回覧板や配布物は必ず声をかける
2. 一人ひとりが違うことを分かりあおう (私たちが支え合い、助けあうまち)	
○世代・立場の異なる人同士と一緒に学ぶ・遊ぶ機会として、勉強会・ワークショップ・講演会等を企画する	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング、コンサート、カーリング教室、文化講演会、ピラティスヨガ、小学校地区合同運動会、ソフトボール大会、カレンダー作り、写真コンテスト、読み聞かせ、キャンドルづくり、ふるさとキャンプ等々 ・保健会による世代間交流、ふれあい茶の間、乳幼児をもつママたち交流、老人クラブ、敬老会、新飯田まつり
○地域の人が集まる場をつくり、お互いを知る機会を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・各種サークル活動や行事の一覧表を作成し、PRを行う ・誰もが気軽に集まれる場が必要 ・市日で集まる、肉屋さんなど店先に椅子があり、集まる場所がある ・地域の茶の間はJA(地域生活センター)とシルバー乙女 ・男性が出てこない→男性が出てくるようにと、敬老会で劇に取り組んだ。 ・空き家の活用
3. みんなの「力」が発揮できる地域にしよう (私たちが支えあい、助けあうまち)	
○高齢者の知恵を、子どもたちへ伝承する	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能伝承の会(芸能教室) ・世代間交流で、昔遊びや笹団子づくり等とおして高齢者の知恵を教える
○地域の人の「経験・力」を生かせるよう工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもみこし、天神様、地藏様などの祭り ・農業体験、みそづくり体験など ・世代間交流の場が引き続きあると良い ・低学年と高学年など、対象別にできると良い

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取り組み内容
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の前に各集会所で自治会単位で話し合いを行った。 ・障がい者や高齢者について検討はされたが、地区の中で検討内容等の情報共有はない。
D	D	B				・アンケート調査の実施
B	B	A				<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しや見守りは地域で行われている。 ・認知症の方々についても見守りが行われている。
A	A	A				・定期的に行われている
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取り組み内容
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間は2か所 ・市日で集まる場所が、できている。 ・区からの補助金を受けて世代間交流を行った。 ・カレンダーに行事等を記載している。
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取り組み内容
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の実施 ・教育コーディネータによる活動が活発 ・下地域のセーフティスタッフが不足している。 ・街中では、犬の散歩を兼ねて児童の見守りが行われている。 ・新飯田地域は防犯が行き届いている。

笑顔がつどう 明るい茨曾根

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組み内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組みの90%以上達成	A
期待される取組みの75%以上達成	B
期待される取組みの50%以上達成	C
期待される取組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. 高齢者の楽しい地域づくり (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○老人クラブの活動を充実させる、老人クラブを増やす	<ul style="list-style-type: none"> 清水・上茨～皆老会、道湯・新村～老人会、下茨～五九朗会 畑づくり、神社清掃、日帰り旅行、収穫祭等、活発に活動 クラブが出来ていない地区への取り組み 庚は取組みなし、丸湯は班会、東萱場は茶の間 リーダーの育成、役員体制の検討 老人クラブ活動の充実、活性化 仲間づくりから発展させる 老人クラブに限らず、サロンやグループなどの自主的な会の活用
○地域の茶の間をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 清水、上茨、丸湯、東萱場、道湯、新村では順調に開催 庚地域では「中途半端会」開催 下茨地域での新規開催 お茶の間だよりの発行 他のお茶の間との情報交換 お茶の間で活用できる資源の仲介役が必要
○閉じこもっている人を誘い出す	<ul style="list-style-type: none"> 地域での声かけ、訪問事業 高齢者や身体的に不自由な方への対応検討
2. 子どもたちの安全な地域づくり～セーフティスタッフ活動に取組もう～ (安心して子育てできるまち)	
○下校時に合わせて大人が気を配る	<ul style="list-style-type: none"> 地区の皆さんが気にかけるようになった 子どもたちが挨拶をする。中高生になっても挨拶する習慣 ながら活動が定着した 各地域から2名ずつ交通安全委員を選出した 下校時の見守りに防災無線の有効活用についての働きかけ 防災無線は、地域生活センター、東萱場、清水の3か所(丸湯にはない)。地区ごとにプログラミングができるが、要望が挙がってから対応を検討する
○セーフティスタッフ活動に取組む	<ul style="list-style-type: none"> 地域では6名のセーフティスタッフが生じ、オレンジのジャンパーで活動中 セーフティスタッフの活動に、交通安全協会が協力している 白南中では環境安全委員長が、また茨曾根小学校はPTA3役がセーフティスタッフとして活動している 地区の危険ヶ所の把握(マップの作成) 全自治会での活動の周知とスタッフの募集を行う 学校と地域のセーフティスタッフの交流、及び連携が必要 地区の危険ヶ所(通学路)の見直し(マップの作成等)
○子どもにも、地区の取り組みを伝える	<ul style="list-style-type: none"> 学校の朝会で顔見せを行い、子どもたちに活動を伝えることができた 顔の見える関係をつくる(多世代交流や茨曾根応援団の活用など) 誰もが集まれる大きな集まり(イベント)を行う 27年度に児童館がオープン～高齢者もいっしょに「参加型イベント」の実施

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
C	C	B				老人クラブの活動は活発だが、参加率が8割に満たない。老人会のリーダーは継続している。五九朗会は小学校の草取りに参加。
B	B	B				果物どころは男性が集まらない。下茨では毎月酒を交わす会がある。ひまわり会(婦人会が元)では約11名集まっている。5月、10月は忙しい時期(果物)・助成の書類は高齢者にとって大変。報告を出さなくてはならないとなると参加者がいなくなるため助成金を利用せず集まっているところもある。
A	A	A				敬老会の案内を行政から送るようになってしまい、せっかくの声掛けの機会がなくなってしまった。個人情報の壁があり、障がいの情報がない。障がい者団体から発信してもらえば自治会も入っていける。
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
A	A	A				児童生徒とのあいさつは習慣づけられている。防災無線を小学生の下校時に合わせて活用ができるか行政に確認。
A	A	A				セーフティスタッフ(見守りボランティア)数は前年と同様6名。登下校時に国道県道沿いで見守りボランティアがいない地域に保護者が入れないか見直しを行っている。危険ヶ所のマップは毎年更新しており、自治会長も確認している。
A	A	A				小学生(5年)と田植え～稲刈りし、学校給食で交流を持つ。収穫した米を文化祭で販売。小学生と桃の花粉づけ、販売も行っている。小学校の昼休みに児童館の職員が来て一緒に遊んでいる。児童館は学校の帰りに寄れず、遠いところでは徒歩で30分ほどかかり、利用しにくい。

声かけ会 話しあう 助け合う 沢山の合(愛)がある 庄瀬

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組みに内容等共有されていますか)	△
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△
住民にきちんと伝える機会をつくらう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取り組みの90%以上達成	A
期待される取り組みの75%以上達成	B
期待される取り組みの50%以上達成	C
期待される取り組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取り組み 期待される取り組み
----------------------	-------------------------

1. みんなの居場所づくり ~誰もがいつでも気軽に集える場を~ (安心して子育てできるまち・障がいのあるひともない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○歩いて来られる場所に集いの場 (地域の茶の間)をつくようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・菱潟、次郎右エ門興野、新道島クラブ、親友会、優心、じじ会など ・真木や上八枚など定期的な集まりがある。、ゆうわ会(青年会) ・集落で集まろうにも地形的に細長く、集まるのが難しい面がある
○男性・女性・障がい者・高齢者・子ども・の交流の機会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、子ども会中心のお楽しみ会 ・夏祭り(子ども神輿)、音楽会(お寺コンサート)、ママさんバレー、野球リーグ戦(年3回)、ピンポン、カーリング ・若者世代が中心となって、地域に声掛け ・地域センターロビーを活用した交流の場→誰でも利用できる居場所づくり
○忙しい地域からも参加できる工夫を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・桜まつりやライトアップや写真コンテスト(小学校文化祭にて開催。庄瀬の良いところの写真をカレンダーとして作成) ・庄瀬農村公園祭り→庄瀬まつり、スポーツ大会、花火大会等の総合プログラム ・整地をして桜をもっと植え、盛り上げたい
○閉じこもってしまう方々を既存の事業(見守り事業、安否確認等)に誘う、声かけ、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・健生病院班会、老人会(2班)の活動 ・高齢者同士が声掛け(見守り、安否確認等) ・近所のお年寄りが茶飲みをやっている。ゴミ出しを協力してくれる人がいる。 ・庄瀬市(1・6)寄り合い場所(八百屋2軒)送迎や配達をしてくれる(駐在さんも来る) ・孤立している人はいないが、拒否をする人がいる。 ・新しいカタチの老人会の構想 ・老人会の名称がネック。
○集まる場を増やして、情報交換及びボランティア活動の場とする	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会で高齢者の集まり ・農村公園祭り、桜まつり、保全会の花植え ・長寿を祝う会、芸能祭、防災訓練 ・球根植え、クリーン作戦、空き缶ひろい ・イベントなど様々な企画でやっているがまだまだ改善点はある ・声かけ、安否確認などのボランティアを増やす ・地域交流や世代交流の場の拡充

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
D	D	C				<ul style="list-style-type: none"> ・集会所のあるところでは集まりがある。 ・病院の班会活動の集まり(真木、沖新保、十二道島、上八枚) ・菱一の茶の間(月1回)
C	C	A				<ul style="list-style-type: none"> ・3地区合同の神輿 ・若い世代が年3回野球大会を開催(庄瀬以外からも参加) ・その他卓球、カーリング、カラオケ大会、夏祭り ・地域生活センターで月1回の若者の集会
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・調整池に桜を植樹
B	B	A				<ul style="list-style-type: none"> ・近所同士の集まりがある。(個人宅) ・市日の露天に集まれる場所ができる。
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・庄瀬の行事の一環として行っている。 ・児童生徒とのあいさつ運動、セーフティスタッフ活動 ・ボランティア団体や活動が少ない ・何かやりたいという気持ちのある人とやってほしい人とのコーディネートが出来ていない

2. 一人ひとりが違うことを分かりあおう (私たちが支えあい、助けあうまち)	
---	--

○子どもたちの下校時の安全を地域で守る	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の声かけ見守りの実施 ・小学校であいさつ運動実施 ・民生委員による運動 ・セーフティスタッフの確保と拡充 ・下校時間帯の見守り体制
○災害時の支援体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織 ・高齢者同士が声かけあえる地域 ・隣近所で見守りができる体制 ・日中、残っている人で支え合える体制づくり ・災害時、安否確認ができる体制づくり

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の声掛け等は行っているが、体系化されていない部分がある
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・体制整備も含め防災への取り組みはできている ・身近な地域でのAEDの設置

声かけ合い 心をつなぐ 小林地区

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△
住民にきちんと伝える機会をつくらう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組みの90%以上達成	A
期待される取組みの75%以上達成	B
期待される取組みの50%以上達成	C
期待される取組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. 高齢者・障がい者・子どもがつながりを感じられる交流の機会を充実させる (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○自治会での目的や年齢にこだわらない定期的な集まりを開催する	・子ども会、防災会、子ども見守り隊、防犯パトロール、地域の茶の間 ・男性が集まりに出こないので、目玉を考える (リハビリ、マッサージ、軽い運動、女性が誘う等) ・趣味のサークルなどで交流の輪を広げる(介護予防になる)
○高齢者に限定したお茶の間だけでなく、若い世代を含めて集まれる場を実施する	・地域の茶の間、ふれあい昼食会、敬老会 ・世代間+障がい者も交えた交流事業 (地域の中で障がいに対する理解を得、顔の見える関係づくりを構築す) ・施設と地域の交流事業 ・男性の茶の間をつくる
○単発でなくその後の繋がりを感ぜられる活動をする	・地域の茶の間、ふれあい昼食会、歳末訪問活動等声掛け ・老人クラブのボランティア活動 ・ウォーキング等、自然に参加できる健康づくり ・近所の見守りや声掛けが必要 ・認知症になった時に近所に伝え、協力を得ることができるようになる ・曜日を決めて、乗り合わせによる買物支援 (有償ボランティアの育成が必要～公民館事業で人材育成ができないか) ・老人クラブの会員を増やす
○祭りのようなイベントを検討する	・春秋の祭礼、運動会、卓球大会、カーリング大会、文化祭、敬老会、ひなコンサート ・ひなまつりコンサートは定着、祭礼は、日曜日の開催へ(神社に相談)コンサート ・継続した活動へ
2. 地区の皆が地域活動情報を知る (私たちが支えあい、助けあいまち)	
○チラシを配布するだけでなく声をかけ、直接一生懸命誘う！！	・年3回の声掛け訪問 ・話しやすい雰囲気をつくる(配布物の際にひと声かける)
○地区の各団体の役員になることで地区活動を知ることができるため、役員を増やすことを検討する	・コミュニティ協議会の部会、専門班の組織化 ・検討会の継続
○地区住民も積極的に情報を得る努力をする	・自治会長協議会・コミュニティ協議会との連携活動 ・コミ協だよりの発行回数を増やし、写真など見やすくした ・地域の関係団体と災害時の検討を重ねた ・回覧や案内チラシを渡す際に、ひと声かける
3. 子育てを地域住民で支援しよう (私たちが支えあい、助けあいまち)	
○地域ぐるみで子育てを支援しよう	・こぼっ子クラブに地域住民が支援する ・登下校時の見守り ・子供の通学時に合わせて犬の散歩をする ・退職された方々に協力頂き、子供たちの見守り活動に参加してもらう ・畑仕事をしている人から声をかけてもらう ・こぼっ子クラブの運営に地域の大人が協力し、生活の基本や社会規範を教える

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	特記事項
B	B	B				・3老人クラブ会員数200人弱(新規会員を勧誘している)会員になっているが、自分の興味のある活動にだけ参加するという人が多い ・他のジャンル(芸術・文化活動)への参加が無い。文化祭でも絵が少なくなっている
B	B	B				・茶の間で多世代交流、障がい者交流を実施 ・ふれあい昼食会では高齢者と障がい者を招待している ・生活センターを障がい者も利用しやすくないか(多目的トイレ等)
A	A	A				・さつき健親会は3年後の週1回開催を目標に活動中 ・皐月町は高齢化が進んでいるが、地域との交流が無い。田畑は少ない地域。元公務員の方が多いので、役を持たせて地域で活躍してもらえないか ・防犯部、老人クラブ等常時近所の見守りや声掛けを実施 ・認知症が社会的に認知されるようになり、認知症で徘徊した人を協力して自宅に送ることができた ・買い物支援は継続して検討
A	A	A				・地域のイベントは継続的に実施している ・お茶の間劇場(年1回)で茶の間の方を招待して映画会等実施
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	特記事項
B	B	A				・民生委員、防犯パトロール、各敬老会で活発に声かけを行っている
B	B	A				・部会毎に副部会長を付け加え、組織化された
B	B	B				・新しい自治会長へも地区の考え方(アクションプラン等)を定例会を通じて伝えていく
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	特記事項
A	A	A				・クラブ活動は地域のボランティアが支えている(茶道が人気) ・出前講座 ・文化祭での茶道を検討

「やろってほ！」笑顔で仲良く臼井地区

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう（地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか）	△
引継ぎをきちんとしよう（役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか）	△
住民にきちんと伝える機会をつくろう（地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか）	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組みの90%以上達成	A
期待される取組みの75%以上達成	B
期待される取組みの50%以上達成	C
期待される取組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組 期待される取組
1. 交流・仲間づくりができる集まる場がある地区 (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)	
○地区の既存組織を大切に育てるとともに連携する	<ul style="list-style-type: none"> 2カ月に1回のコミ協総務委員会など、複数回での会議、集まり 定期的なお茶の間の活動(4か所) 自主防災会による避難訓練の実施 臼井桜寿会が地域で集まり茶の間をやっている。(4~5人) 中学校の同窓会を組織化したい。(臼井地区は卒業した中学校が一本化していない) 中心となるリーダーの育成
○既存の事業を活発にする (狸の婿入り、敬老会)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の茶の間 狸の婿入り(写真コンテスト) 伝統芸能の棒おどりを中学校の体育祭で披露 交流の拠点として商店街の空き店舗の活用→地域全体の交流イベント 各団体が協力し合うことでより良いものができる 既存事業を活発にしながらか多世代交流できる新しい事業もつくりたい
○送迎を含めてだれでも参加できる方法を検討する	<ul style="list-style-type: none"> 敬老会のとき、送迎している自治会がある 移動手段についての検討 敬老会に大勢参加してもらうための取組み
○事業者も地区の一員、積極的に交流を図る	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流まつり(感謝祭)の開催 地域の交流拠点やボランティア活動の推進
2. ボランティアや地区活動を理解し関心をもち支えあうまち	
○あいさつ運動を実施する	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動→標語・ポスター募集、優良作品の選定、表彰、のぼり旗など あいさつ運動を見守りにつなげていく あいさつ運動を地区全体へ広める
○ボランティアや地区活動に積極的に参加する	<ul style="list-style-type: none"> 食育・生活指導を行っている 食生活改善推進委員による食育・生活指導 福祉施設でのボランティア活動 花植え、読み聞かせなどボランティア活動 子どもの登下校の見守り
○行事や活動の情報提供とPRを努力する	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等を含むカレンダーを作成→活動のわかる写真を掲載して情報を発信 ※回覧板やチラシなどの配布物は声を掛けて情報提供

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> 定期的な会議は、実施している。 それぞれ学校が違うため統一が難しい 小学校で運動会形式のイベントを実施 リーダーの育成が課題
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の拠点として、たぬきのお茶の間で写真の展示を検討 各イベントに保育園児、小学生、中学生の参加があった 狸の婿入り事業と福祉施設事業の共催を計画
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> 敬老会の送迎を自治会長が実施してくれている 敬老会に保育園、小学生の参加があった マイクロバスの送迎を実施 各世帯へのチラシの配布検討
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> 地域交流祭と狸の婿入りを合わせて実施し、参加者の増員を図る
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> 花のプランターに標語プレートを付けて設置 あいさつ運動のTシャツを作成し実施
B	B	A				<ul style="list-style-type: none"> おはよう朝ごはんのイベントを実施し、親子の参加があった 男の料理教室を実施 あいさつ犬3頭登録→拡充を図る 小学生が通る場所に「～ながら見守り」が出来るようベンチの設置を検討 公園の清掃に中学生が参加している
B	B	A				<ul style="list-style-type: none"> 学校行事カレンダーは、全戸配布している 地域交流の拠点に写真の展示を検討

なじらね～？と声をかけあう大郷地区

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	△
引継ぎをきちんとしよう (役員交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. 支えあいの関係づくり (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)	
○隣近所と普段からのコミュニケーションを持つ(あいさつ声掛けをする)	・大鷲小・白根北中のあいさつ運動の強化週間の取り組み ・挨拶は基本。大人から積極的に声を掛け、子供の目線で挨拶をする
○昔ながらの声を掛け合う関係を若い世代に継承していく	・大鷲夜まつりで多世代が交流できる →親と子がつながることで、地域もつながる ・しめ縄づくりで世代間交流 ・地域交流イベントなどを実施しながら声を掛け合う関係を伝えていく ・小学校とのタイアップ(多世代交流イベントの実施)
○せつかくまだ残っている隣組の良い部分をうまく残していく	・最近では冠婚葬祭のみの関係 ・クリーン作戦(年1回)は全戸参加→安否確認、多世代交流 ・隣組を活用して緩やかな見守りを実施したい ・回覧板や配布物は必ず声を掛ける
○みんなが大郷地区のことや活動に関心を持ち、地区の活動を理解し、積極的に参加する	・地域の茶の間 ・お弁当のお届け(給食サービス事業) ・安心箱支給事業 ・友愛訪問活動(安否確認) ・回覧板や配布物は必ず声をかける ・回覧板の工夫 ①デザイン ②キャッチフレーズ ③季節ごとの標(子どもたちから募集) ・お弁当やおせちの配食、友愛訪問の際に子どもたちからのメッセージを入れたり、一緒に配る
2. 集まる場づくり～年代、目的に関わらない誰でもいつでも寄れる場所を目指して～ (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)	
○情報の宝庫である“地域生活センター”を拠点に情報や行事を発信し、各集会所へ広げていく	・サークル活動や学童クラブ、子育てサロン、健康体操(いきいき会)等でセン ・健康寿命を延ばす ・一人暮らしの方が外に出られるような集まる場づくり
3. 安心して暮らせる地域づくり (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)	
○災害時のしくみづくりを進める	・自主防災会を中心とした年1回の防災訓練を実施 ・災害時のマニュアルづくりや地域福祉マップづくり ・防犯対策の検討

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
A	A	A				通年、登下校時の児童、生徒と積極的に挨拶を交わしている。
A	A	A				夜祭に園児、児童、生徒の発表をしてもらったり、各集落ごとの祭りにも参加してもらっている。また、学校事業へ地域住民が参加し、交流を図っている(カーリング、昔遊び等)小学校でのシニアクラブの実施学校ボランティアの増加
B	B	B				年1回のクリーン作戦に全戸及び子ども会も参加している普段からお隣への声かけが行われているお祭りの前のお宮掃除にはたくさんの方が参加している
B	B	A				お弁当やおせち料理の配達時に地域の子供達からのメッセージや絵を添えて高齢者に配布している回覧板での情報発信を続ける
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	B				コミ協事業への参加者が多い。下赤洗地区で年4回の集まる場づくりが定着化(赤洗会)下大郷1・2、瀬ヶ通で班会を実施郷の会(毎月)実施
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
C	C	C				来年度、災害時の対応について意見交換会を実施

全員集合！鷺巻地区 ～笑顔の和を広げよう～

確認事項	評価	*それぞれの項目ごとでチェック	評価	推進目標に対する評価	評価
地域関係者で共有しよう (地域関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○	確実に行われた場合	○	期待される取組の90%以上達成	A
引継ぎをきちんとしよう (役員交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△	一部、行われなかった場合	△	期待される取組の75%以上達成	B
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○	ほとんど行われなかった場合	×	期待される取組の50%以上達成	C
				期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
	実施している取組み	期待される取組み							
1. 集落に集いの場をつくる (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)									
○各集会所を拠点とする 体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> お茶の間の新規開設(中鷺ノ木地区) 各集落にお茶の間をつくるにはリーダーが必要 中鷺ノ木の茶の間をモデル(リーダーや世話人のいない運営) 		A	A	A				毎月20日に、はたちの会を開催 (利用者平均8名)
○多世代交流の(機会) 場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 大鷺夜まつり→新しい世代交流活動 →小・中学校との連携で祭りの内容が多彩 (桜町)集会所を利用したサークル活動(卓球・カラオケなど) 桜灯籠まつり(4月中旬/実行委員会方式) 植栽活動(鷺巻地区保全会の立ち上げ) 交流の場をつくる →子供が集まる行事は他の世代も集まる 地域の環境整備活動で地域の繋がりが顔が見える (花植え、クリーン作戦) 		A	A	A				植栽活動として、子供達・保護者と一緒に実施
○既存の事業の拡充 (お茶の間)	<ul style="list-style-type: none"> 下鷺ノ木、桜町、鷺巻いきいきサロンの開設 →参加者が減少 今あるお茶の間を継続していくことが大切 集会所を大いに活用し、集まることから始める 健康寿命を延ばす活動→病院の班会を利用する 		D	D	C				・サロン利用者が高齢となり、参加者が減少 ・歩こう会
○ボランティアリーダー の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> リーダーを育てる仕組みが必要 →コミ協、行政、社協に期待 		D	C	C				・町内に祭り好きな人がいて、ボランティア活動にも積極的に参加
○老人クラブの活性化	<ul style="list-style-type: none"> 植栽活動を通して多世代交流をする 老人クラブと保全会との協働 健康寿命を延ばす活動 		D	D	D				・老人クラブ⇒2クラブ ・上鷺ノ木には、老人クラブがないため、「むつみ会」を 立ち上げ、H29年度は、随時集まりを開催 ・有志の会(年2回開催)、はたちの会のメンバーと新しいメンバーそれぞれ半数集まり活動をしている。

明るく いきいき すこやか 根岸もん

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	△
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	×
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. お茶の間を全地域につくろう (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○新規のお茶の間を立ち上げる	<ul style="list-style-type: none"> ・9か所のお茶の間、サロン活動 ・地区集会場を活用したサロンの立ち上げ
○既存のお茶の間事業の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶の間交流会 ・子供、大人の垣根をなくした集まり ・ひまわりクラブと地域の高齢者の交流 ・案内チラシや回覧板の工夫 ・ネーミングの変更 ・子供たちのに昔遊びを教える
○隣近所との協力体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・あやめ祭りをはじめとした各種祭り ・伝統芸能 ・米づくり ・回覧板の見直し ・ちょっとしたおせっかいが大切 ・登下校時の見守り活動で声掛け ・ラジオ体操に多世代が参加
○趣味のサークル等をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・カーリング大会 ・ゲートボール大会 ・輪投げ大会など ・案内チラシや回覧板の工夫
○リーダーの育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・各種活動を通じ、リーダーの自然発生 ・役員の引継、途切れない仕組みの構築 ・役員改選時の勉強会実施や事業手順書の作成
○地域で要援護者が取り残されないような体制づくりをする	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の立ち上げ ・根岸地区図上訓練の実施 ・防災訓練 ・ちょっとしたおせっかいが大切

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
C	C	C				既存のお茶間の実施
B	B	B				参加者同士で声を掛け合いながらお茶の間に参加している 新規参加者が増えない
B	B	B				あやめ祭りを実施 その他各自治会の祭りは春・秋2回実施
A	A	A				あやめ祭同日で各大会実施 カーリングは1月にも単独でも開催
C	C	C				役員改選時の引継ができていない 引継所の作成を検討
A	A	A				根岸小学校と合同で防災訓練を実施

若いも若きもスクラム組んで、住んで楽しい大通

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組まないよう等共有されていますか)	△
引継ぎをきちんとしよう (役員交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとでチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. みんなで参加・交流・理解 (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○学校と地域との協力体制をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業や行事に地域ボランティアが積極的に協力している。(老人会の出前授業他) 「大通小学校見守りたい」を結成(登下校の見守りマップを作成) 地域住民への活動の周知 周知活動の強化 子どもたちへ活動の意図を理解させる工夫が必要 見守りたいとサーフェスタッフを核とした見守り活動の充実
○各種団体等の協働を図る	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、老人会、子ども会、PTA、サーフェスタッフ、民生児童委員、保健会、食生活改善推進委員、地域ボランティア、コミ協などの相互連携(防災訓練・大通地域合同クリーン作戦など)(老人会の出前授業他) 社会福祉協議会との協働 多世代交流、子どもたちの見守り活動、PTA活動、老人会など、もっと情報発信、活動を見える化し理解者を増やし連携を強化する。
○既存事業を拡充し多世代交流の機会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 中学生と老人会共同ゴミ拾い 地域の茶の間、子育て講演会、大通夏祭り、大通レクリエーションフェスティバル(スポレク)、大通地区文化祭、ふれあい昼食会、敬老会等の開催 事業のPR、広報の仕方に工夫が必要 自治会単位でお茶の間をつくる(自治会の後押し必要) 元気な高齢者が集まれるサークルづくり 集会所の利用を増やす(地域に大いに使ってもらう) 地域住民の交流と健康づくり

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	B				学校だより、小学校の花は自治会費から出ている。センター、郵便局への花植えを生徒がしている。ふれあい公園の草刈りに小・中学生が参加している。子どもたちへの感謝の気持ちをアピールできていない。見守り隊の地図の見直しが必要。
A	A	B				大通1・2イルミネーション等、多世代交流活動は増えている。アグリパークでどんと焼き。役員、PTA、老人会の交流は出来ている。サーフェスタッフの住民周知ができていない。思いやりネットは地域住民がスタッフとなっている。
B	B	C				団塊の世代の人たちを老人会にいかに参加してもらうか。

2. みんなで作ろう安心安全 (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○地域内でみんなの声かけ	<ul style="list-style-type: none"> コミ協だより、防犯だよりの発行 青色パトロール車による防犯活動の実施 夜間パトロールの実施 高齢者世帯の見守り支援 高齢者の見守り、支援体制づくりの充実 団体活動PR版など町内で保存版とする ウォーキングや犬の散歩を利用した見守り活動
○隣近所との協力体制をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練や日頃の連絡網を使用して協力体制の構築 老人会の友愛訪問活動 活動の資料を整理し、次の役員へ引き継いでいく体制づくり
○災害時に対する避難体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 大通全地区の防災訓練実施 自治会独自の緊急連絡網の整備 自治会単位での避難訓練 平日の昼間を想定した避難訓練 災害時要配慮者への救援体制づくり

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	C				自治会役員にコミ協だより配布。自治会単位で動いている。受け取る側からの安心・安全について見直さなくてはならない。
B	B	C				若い人が非協力的。
D	D	C				防災については民生委員、自治会で個別の避難誘導計画があり意識が高まってきた。自治会単位でマップ作りができることが目標。黄金北では1人に対して複数で見守るというシステムが出来ている。住民の同意書について個人情報の問題もありどのようにするのが課題。

みんなにやさしい シロネもん

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組みの90%以上達成	A
期待される取組みの75%以上達成	B
期待される取組みの50%以上達成	C
期待される取組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. 集まる場をつくろう (安心して子育てできるまち、障がいのある人もない人も安心して暮せるまち、高齢者が安心して暮せるまち)	
○お茶の間活動を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> お茶の間(簗口、日の出、十五軒、清楽苑、中央郵便局、魚町、みんなの間) 空き家活用できないか 周知活動の強化
○気軽に誰もが集まれる場づくりを検討する	<ul style="list-style-type: none"> 商店街で定例会、公園の草取り(年3~4回)お祭り前に神社の草取り 地域の人が集まるきっかけづくり 町内会など小さな単位の集いの場づくり
○心配な人に対する訪問活動を検討する	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員の訪問活動、日の出町のネットワーク活動、自治会班長の声かけ(配布物届の際)、住民同士で気にかけている 子ども会から行事など声かけ 保健会と老人会がタイアップした活動
○地区のみんなが顔見知りになるための活動を検討する	<ul style="list-style-type: none"> 花見、まつり、新年会、お茶の間等で交流(中央通5、魚町4など) 町内会総会を兼ねた懇談会(諏訪木7) 町内会での茶の間の立ち上げ 町内で上記にあるようなイベント検討
2. みんなが地域の情報を知る (安心して子育てできるまち、障がいのある人もない人も安心して暮せるまち、高齢者が安心して暮せるまち)	
○地区活動のPR方法を各実施主体が工夫する	<ul style="list-style-type: none"> コミ協だよりの発行、ホームページポスター、チラシ、回覧板 町内会の集まりで情報提供、学校だよりの回覧 配付物を目にとめてもらう工夫 団体活動PR版など町内で保存版とする
○お茶の間など集まる場を活用し、地区の活動などを共有する	<ul style="list-style-type: none"> 茶の間や自然に集まる場があり地域情報を得ている 情報を得る場としてお茶の間を広める 茶の間等に参加できない人への対応
○災害など非常時のスムーズな情報伝達体制をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の援護体制確立(古川団地) 町内会で家族構成を把握し、いざという時の協力体制(文京町、水道町、桜町5) 防災訓練の実施と要援護者の確認 上記の自治会のような活動を広める
3. 町内会の活動を見直そう(私たちが支えあい、助けあうまち)	
○まつりに積極的に参加してもらうための働きかけをする	<ul style="list-style-type: none"> まつりでよさこいできた まつりを継ぐ人の育成 魅力あるまつりを工夫(よさこいチームの結成)
4. 若い世代に「福祉」に参加してもらう(私たちが支えあい、助けあうまち)	
○若い世代の自治会等の役員をターゲットに小さなことでも関心もってもらおう工夫を検討する	<ul style="list-style-type: none"> 南っ子ふゆまつり、ふれあい親子まつり 親子会(魚町連合会) 子ども会と町内会がタイアップした事業 世代間交流事業(敬老会の工夫など)

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	A				<ul style="list-style-type: none"> 地域の茶の間、1ヶ所増えた。(清楽苑お楽しみ会) 回覧板にアクションプランを周知
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> 南地域の茶の間、白根健康福祉センター(まちなかの和、コンサート、ウォーキングコース)
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> 住民同士で気に掛けかっている
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> 町内会総会や白根祭りなどでの町内親睦 夏休みラジオ体操を町内会と子供会合同
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> 回覧板によるPR、地域センターなど公共施設でポスターやチラシ 住民により多く参加してもらいたい場合は、全世帯へチラシ配布
B	B	B				
B	B	A				<ul style="list-style-type: none"> 南部、中部、北部にて防災訓練を実施
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> 大晦日は、本新蝶組と子供会で年越しそばの販売を行った(能登)
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> 南っ子ふゆまつり→しろねふゆまつり ふれあい親子まつりは、H27年度で終了 子供みこし(町内会と子供会合同開催)

なじらね ばかい～ね いきいき ふれあい ささえあい 味方地区

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○

*それぞれの項目ごとでチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組 期待される取組
1. 閉じこもっている高齢者に外に出てもらおう (住みなれた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○地域ごとの茶の間を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー懇談会開催 ・趣味活動 ・お茶の間9カ所、子育てサロン1カ所開催 ・新しい取組など工夫が必要 ・次世代につなげる
○老人会の活動に積極的に参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・輪投げ大会(小学生も参加) ・ゲートボール、草取り ・楽友荘でお楽しみ会(会員以外も参加) ・魅力ある老人会で、新規会員の加入を図る ・多世代交流の場づくり
2. 交流の場を広げ、みんなで参加しよう (住みなれた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○障がい児者との交流の場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ友の会 ・身体障がい者の集まり、運動会 ・小中学校の総合的な学習時間 ・障がい者、健常者、高齢者混じった交流 ・顔見知りになるゲーム、食事会など
○男性ボランティアの育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会の輪投げに男性参加 ・具体的な役割を依頼(防災等) ・核になる人の育成 ・電球の交換等、ちょこっとボランティア
○地区敬老会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3地区ともに盛大、高齢者同士の交流の場 ・新規会員の加入を図る ・敬老会を世代間交流の場として工夫

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	A				<ul style="list-style-type: none"> ・お茶の間、子育てサロンの設置数は、現状維持 ・お茶の間に参加するとき利用者が声を掛け合い誘いあって利用者が増えた
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブが小学校で昔遊びを教えながら交流を図る ・新規会員加入に努めている
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者同士で研修の充実を図っている。 ・味小で生涯学習を通して障がい者の理解を図っている ・老人デイサービスへ慰問している
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし配食サービスの配達ボラ数は現状維持 ・一部地域でゴミ出し支援実施。 ・地域で見守り活動の仕組みづくりができる。
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会への出席者が多い。 ・敬老会余興への参加。 * 地域の伝承(こども神楽舞) * 防犯・認知症への理解

あいさつ 声かけ 思いやり つながりふっつ 獅子の里

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	△
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組 期待される取組
1. 子どもを含めての世代間交流の活動をしよう (住み慣れた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○セーフティスタッフの活動を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・月潟・大別当で5~6人が活動 ・ながら見守りで良いので、地域全体の活動へ ・スクールバス降車後、自宅までの見守り ・スタッフ確保のためにも活動のPR
○地域の茶の間に子どもたちを招いて一緒に活動する	<ul style="list-style-type: none"> ・大別当、曲通、月潟の茶の間では、世代間交流の日を設けている ・保育園や学校に高齢者が行く ・茶の間の活動を積極的にPR ・健康センターを有効活用して、新しいイベントを実施
○ふれあいスクールを継続する	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいスクールの継続実施 ・保護者も運営スタッフとして参加 ・ボランティアの募集 ・老人クラブの協力
2. 地域の茶の間を各集落につくろう (住み慣れた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○今あるお茶の間以外にも、各集落に地域の茶の間をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の茶の間の実施 ・茶の間の活動を積極的にPR
○今あるお茶の間については、継続し充実していく	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の茶の間は継続実施 ・子育てサロン継続実施 ・魅力ある茶の間づくり
3. 地区の運動会を盛り上げよう (住み慣れた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○月潟地区全体が参加し、運動会を盛り上げ、住民同士がふれあい、交流を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・全集落参加の運動会の継続実施 ・地区役員の負担の軽減 ・魅力ある内容
4. ボランティア・地区のリーダーを育成しよう (住み慣れた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○今ある組織・グループの活動を若い世代に継承する	<ul style="list-style-type: none"> ・南天の会、セーフティスタッフのメンバー募集 ・中学生の奉仕活動 ・仕事をしている人も参加できる工夫 ・世代間交流や茶の間の活動のなかで、ボランティアリーダーを育成
○活動を楽しみ・満足感や達成感が持てるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体で研修会や懇親会の実施 ・活動のPR
○個人個人の意識がアップするような啓発事業を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と福祉のつどいを開催 ・認知症の理解を深める活動を実施 ・啓発事業の充実 ・防災無線を活用し、徘徊した人を地域で探す

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
C	C	C				<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは現状維持でなかなか地域全体への活動にならない。 ・今後、学校や老人クラブ等と協力し、スタッフ募集のチラシを配布。(配布回数を増やす)
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数が少ない。 ・茶の間によって世代間交流を積極的に実施している。 ・お茶の間の参加者が増えない。今後、運営内容の検討が必要。
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・他からの協力が得られない。 ・今後、学校や老人クラブ等と協力し、スタッフ募集のチラシを配布。(配布回数を増やす)
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・4茶の間の運営支援(地区社協) ・大別当の茶の間の運営に対し、その功績が新潟市より評価された。(新潟市健康寿命延伸アワード準グランプリを受賞)
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・現在、世代間交流を3カ所のお茶の間で取り組んでいる。 ・今後、各お茶の間で積極的に世代間交流を実施していきたい。 ・若い世代への呼びかけ
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・全地区で参加している。
27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	取組み内容
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が地域の祭りや缶拾い等に積極的に参加し、その取り組みが評価され、ライオンズクラブより表彰を受ける。
B	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの高齢化。 ・若い世代への参加を促す。「声かけ」
A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・研修会等実施をしている。 ・今後、若い世代向けの研修等の内容を検討する。